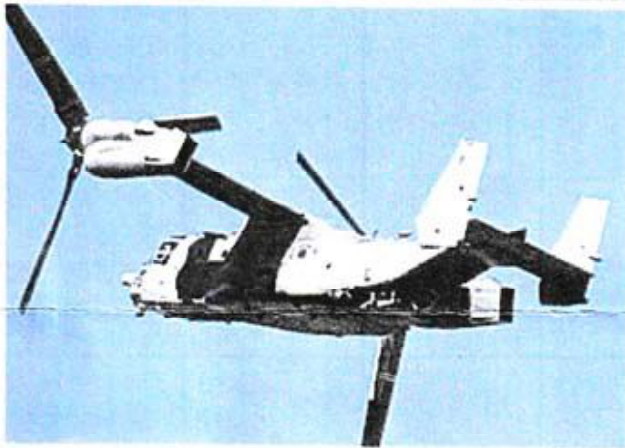


世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2019.3.15 No.345 東京・羽村平和委員会発行



横田オスプレイ 大砲と機関銃を下に向けて離陸 北へ



3月13日水曜日、CV22オスプレイ2機13-0069と13-0071が15時43分に離陸、北の方に向いました。なんと、オスプレイは大砲と機関銃を下に向けていたそうです。CV22の訓練には空対地射撃訓練が計画されており、訓練地域は、東富士演習場、三沢対地射撃場、沖縄です。CVオスプレイは今回は三沢に向ったのでしょうか。CVオスプレイの本性を剥き出しに、危険な訓練が行われそうです。日本全国から、オスプレイを日本で飛行させるな声をあげていくことが、もてめられています。

写真 13日、横田基地を離陸するCV22Bオスプレイ

12日 横田オスプレイ 夜9時半まで暴れまわる



3月12日火曜日は、CV22オスプレイ2機13-0069と14-0075が15時48分に動きだし、15時51分に離陸しました。

18時16分に戻ってきて、横田基地西側を回り、離着陸訓練、ホバリング、急旋回飛行などを繰返し、18時48分に駐機場へ向い、休憩。

19時41分、再び離陸し、45分から50分頃まで南側でホバリング。19時59分から20時06分まで、北側でホバリング。その後、横田基地西側を回り、離着陸訓練、ホバリング、急旋回飛行などを繰返し、21時30分に訓練を終わりました。

オスプレイ横田配備撤回を 署名1万7千筆提出

3月7日、横田基地周辺で活動する6団体でつくる、オスプレイ横田配備反対連絡会は、17165人の署名を外務省と防衛省の担当者に渡し、危険なオスプレイの配備撤回を求めました。



3月17日は記念の第120回すわりこみ!

午後 1時30分~

3時30分

輸送機に特殊作戦の任務

変質する横田基地③

横田基地には現在、輸送機C-130J-30スーパーヘラクレス14機が所属しています。

CV-22オスプレイ横田配備は全部が全部、機能強化されたが、この輸送機は、

2017年3月から2018年4月にかけて新型に交替することで機能強化しました。

2機で3機分に

新型は旧型のC-130Jに比べると、全長が5メートルも長くなり、プロペラは4枚から6枚に。馬力もアップし、米軍は「新型を2機で旧型3機分の働きをする」と言っています。新型は14機で、21機分の働きなんです。

新型の全長は35メートル、オスプレイの2倍の長さ、見るからに大きく、それが低空飛行で旋回飛行しながら、昼も夜も飛び回



フレアを発射するドイツの米空軍基地配備のC-130J(2016年、米空軍ホームページより)

ります。騒音もひどくなりました。また旧型は2機編隊の飛行が多かったのですが、新型は3機4機の編隊で飛び回ることが多くなりました。「怖いです！」「自分が狙われているようだ」などの声が上がっています。

C-130という機体は、世界中で多種多様に使われています。安全性が高いと言われていたが、近年アメリカで16人が死亡する事故も起きました。横田基地では、墜落物が多く、18のアンテナ、ケース、フレア(ミサイルを回避するための燃焼物)の一部などが遺失しました。

そして何よりこの輸送機は、特殊作戦の任務を持っています。横田基地で大規模に行われているパラシュート訓練は、全てこの輸送機で行われているのですから。低空の300メートルからの人員降下、高高度の4000メートルからの人員降下を、自由自在にやっているのです。まさに特殊作戦の仕事です。

夜まで競い合い

CV-22オスプレイは地上150メートル以上を飛行することになっており、C-130輸送機は地上300メートル以上を飛行することになっています。横田基地周辺では、この2つの軍用機が競い合うように住宅地上空を夜の9時30分位まで飛び回るのが目撃化しています。

(横田基地の撤去を求める西多摩の会代表・高橋美枝子)

飛行回数増、秘密も増！

変質する横田基地④

福生市の騒音調査地点(熊川、誘導等付近)での年間飛行回数は、2004年度から12年度までの9年間は全て1万回以下で平均は9043回です。13年度から17年度までの5年間はすべて1万回以上で平均は1万1207回です。18年度も、CV-22オスプレイの飛来があり、1万1千回を超えると見られます。

米から多くの飛来

横田基地は兵たん基地なので、米本国からの輸送機の飛来が大変多い。飛来機のトップは大規模輸送機C-17Aで、18年は215回飛来しています。大型空中給油機KC-135Rは99回、大型輸送機C-5Mも7回飛来しており、18年の外米機の飛来回数は1265回にのぼります。毎日のように飛来してくるチャーター機はカウントしていないので、実際はもっと多いということです。

特徴的なのは戦闘機の飛来が近年増えて、18年も117回飛来し、十種、



横田基地に飛来した、アラバマ州エルメンドルフ・リチャードソン統合基地の戦闘機F-22A=2月21日、羽村平和委員会提供

日曜でも住民の迷惑おこまかまいなしに、騒音をどうにかしています。

CV-22日報中止に

18年12月末までは、防衛省職員が横田基地のCV-22の離着陸を監視し、翌日には自治体のホームページに記録が掲載されていました。それが19年1月から中止になり、月報になりました。防衛省は「大方の傾向が分かったから」「毎月、約50回の離着陸ということが分かったから」というのです。私達は1カ月何回だったかをまとめて聞きたいのではなく、毎日どのように飛行しているのを知りたいのです。

2月15日、「1月は64回だった」との防衛省からの情報が届きました。1月は、「うるさい」という声が多く上がっていました。「大方の傾向」の50回よりはるかに離着陸が多かったのです。

危険なCV-22が人口密集地を飛行し、住民が命も人権も脅かされているのに、飛行実態を隠そうとする防衛省のやり方は、許せません。それでもCV-22の事前の情報提供は全くないので、事後の情報提供まで隠し、飛んでいるのに実態を知らせないというのでしょうか。

アメリカ言いなりの異常な日本を、私達は変えたいかなければなりません。(終わり)
(横田基地の撤去を求める西多摩の会代表・高橋美枝子)